

遠絡統合療法 基礎医学セミナー

3-g 局所性症状と治療

1

局所性症状とは

2

局所症状について

- (1) 外傷などの明確な原因があること
- (2) 発症初期に局所に炎症所見があること
※炎症の四主徴：発赤、腫脹、発熱、疼痛
- (3) 症状の局在が移動しないこと
- (4) 多くの場合、一側性であること

※ 遠絡療法では、局所性症状に該当しない場合は、すべて中枢性症状と考える

※ 中枢性症状に対して局所治療を行っても効果はあるが、時間が経過すると症状が戻ることが多い

3

局所性症状(局所治療)の例

外傷 外傷後の痛み

姿勢不良の肩こり

寝違え

ぎっくり腰

Over use による筋肉痛

手術後の瘢痕痛

骨折の早期修復 等

4

治療効果上げるために

- (1) 絶対に治るという意識で治療すること
- (2) 疼痛ラインをしっかりと見極めること
※頸部、肩部はラインの判断が特に難しい
- (3) 治療ポイントを正確に押さえること
※ C-point は特に正確に取ること
- (4) 局所性か中枢性か見極めること
※ 中枢性症状に対して局所治療を行っても効果はあるが、時間が経過すると症状が戻るが多い

5

局所治療 練習

6

局所治療 練習問題

① 右腰臀部痛 ▶ rAyIII /4+b

7

局所治療 練習問題

処方式 rAyIII/4+b

治療式

- 接続(臟腑通治)▶
- 相輔 ▶
- 増流処置 ▶
- 牽引瀉法 ▶

8

処方式 rAyIII/4+b

接続(臟腑通治) ▶

相輔 ▶

増流処置 ▶

牽引瀉法 ▶

臟腑通治

x⇔y 変換 A⇔T 変換

ラインNo.変換

y ⇄ x I ⇄ II ⇄ III

9